

事務事業名	企画展事業	外部評価の状況	事務事業No.	573 - 2
		なし		

**1. 基本情報**

担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名
教育部	文化課	文化財活用担当	主査	樋口 嘉彦	課長	坂口 信治
施策体系	総合計画	政策	5	教育・文化		
		施策	7	歴史的・文化的遺産の保護と活用		
		基本事業	3	教育・観光への活用の推進		
	その他の計画	個別計画	なし			
根拠法令・条例・要綱等	飯塚市歴史資料館条例第3条					
事業開始年度	昭和56年度	事業終了年度	継続	事務事業類型	ソフト事業	
実施手法	一部委託	補助金等の支給	なし	実施計画期間	なし	

**2. 事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と連動）**

概要	飯塚の歴史と文化に関する資料を展示紹介する企画展を開催して、市民に飯塚市の歴史や文化財について理解を深めることを目的とする。					
対象	働きかける相手・もの	飯塚市歴史資料館への市内外からの入館者				
手段	方法・働きかけ（活動指標）	さまざまな分野を展示紹介する企画展の開催、ポスター掲示等企画展広報活動の実施、歴史資料館協議会の開催				
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標）	入館者の増加を図り、飯塚市の歴史や文化財について理解を深めてもらう。				

**3. 活動指標（決算成果説明書と連動）**

指標名	単位	指標の説明（算式等）	前年度実績	本年度実績	次年度見込
企画展の開催	回	企画展の開催数	1	6	4
企画展の広報活動	件	企画展の広報活動数	5	30	20
歴史資料館協議会の開催	回	協議会の開催数	1	1	1

**4. 成果指標（決算成果説明書と連動）**

指標	入館者数	単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込
		人	7,000	目標値	7,000	7,000	3,500
説明	企画展開催中の入館者数	方向性	達成目標年度	実績	726	2,256	
		維持	毎年度	達成率	10.37%	32.23%	
指標	企画展開催中の入館者数1日平均入館者数の増加率	単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込
		%	200	目標値	200	200	200
説明	企画展開催中の1日平均入館者数÷開催していない日の1日平均入館者数×100	方向性	達成目標年度	実績	153	130	
		維持	毎年度	達成率	76.50%	65.00%	
指標		単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込
				目標値			
説明		方向性	達成目標年度	実績			
				達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	

**5. 事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と連動）**

予算科目・事業	会計	1 一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	4 文化財保護費	他 0 事業	
	大	4 歴史資料館管理運営事業費	中	2 企画展事業費						
投入人員 (当該事務事業に対して1年間に投入した人員)	(R2以降)	前年度実績実績(千円)		本年度実績(千円)		増減理由(10%以上の場合)		次年度予算(千円)		
	正職員	0.42	人	3,310	0.42	人	3,443		0.42 人 3,443	
	任期付職員(保育士)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00 人 0	
	任期付職員(CW・水質)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00 人 0	
	再任用フル	0.00	人	0	0.00	人	0	●本年度事業費増	0.00 人 0	
	再任用短	0.00	人	0	0.00	人	0	【事業費】	0.00 人 0	
	会計年度	1級フル	0.00	人	0	0.00	人	0	本年度歴史資料館開館40周年として例年の事業内容に比べ拡充したもの。	0.00 人 0
		1級パート	0.50	人	857	1.00	人	2,004	・印刷製本費 537千円 (前年度 200千円)	1.00 人 2,004
		2級パート	1.00	人	2,545	0.50	人	1,317	・修繕料 792千円 (前年度 なし)	0.50 人 1,317
	人件費計(A)		6,712		6,764				6,764	
事業費	直接事業費(B)	429		2,077				1,412		
	総事業費(A+B)	7,141		8,841				8,176		
直接事業費のうちの主な歳出内訳	印刷製本費	200		537				407		
	展示物運送等委託料	0		0				497		
財源内訳	使用料・手数料(受益者負担分)	0		0				0		
	国・県支出金	0		0				0		
	市債	0		0				0		
	一般財源	7,141		8,841				8,176		
その他( )										

※本年度と比べ前年度新型コロナにより企画展中止による事業費の減も要因。

6. 事務事業の事後評価★			
評価視点	評価項目	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性 評価 (上位施策/ 成果)	市の関与の妥当性	妥当	市の文化財や資料の保存・活用を一体的に行うため、学芸員による企画が適当である。
	目的の妥当性	妥当	飯塚市の歴史・文化財について展示紹介することを目的とするため妥当である。
	対象（受益者）の妥当性	妥当	広く一般に公開しているため妥当である。
効率性 評価 (活動量/ コスト)	コスト削減・コスト効率化	余地なし	事業費の節減に努めており、削減の余地はない。
	負担割合の適正化	適正	適切な入館料を徴収している。
	手段の最適性	最適	収集する資料を活用する手段として適切である。
有効性 評価 (成果/ 活動量)	目標達成度	未達成	一部新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け期間短縮となったが、予定していた企画展は開催できた。期間中の入館者数は増加したが、1日平均入館者数は減少した。
	上位施策への貢献度	貢献できた	郷土の歴史や文化財を広く市民に公開した。
	事業継続の有効性	ある	教育普及事業はすぐにその効果が現れるわけではないため、長期間の継続性が必要。

### 7. 前年度評価時の計画と実績

前年度評価★		前年度記載した改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
評価区分	方向性	次年度以降に予算（コスト）を必要とせず、直ちに実施できる改善策	市報、ホームページ、報道機関への広報活動を積極的に行う。
一次評価	⑤コスト・成果ともに現状維持	次年度以降に予算（コスト）増を必要とし、中長期的に実施する改善策	来館者にアンケート調査を実施し、市民のニーズに合った企画展を継続して実施する。新しい資料の収集、調査、展示に努める。

前年度改善策に対する実績 ★ ※上記の改善策に対して今年度実施できたこと、などを記入

企画展について、ホームページ、報道機関を通じて広報した。前年度に寄贈を受けた伊藤伝右衛門関係資料の修理を行い、今年度に企画展で展示し公開した。

### 8. 今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と連動）★

【成果】 新型コロナウイルス感染拡大の影響で企画展日数の一部短縮もあったが、例年、年4回の企画展実施に加えて5月には、平成28年度から発掘調査を実施したホーケントウ古墳の成果についての企画展及び8月には、東京オリンピック開催にあわせたオリンピック資料についての企画展を通常企画展と同時開催するなど年6回の開催を行い、郷土の歴史、文化財を市民に広く公開した。

【課題】 今後も入館者のニーズに合った企画展を実施する。新しい資料の収集、調査、展示を積極的に行う。

### 9. 今後の事業の方向性と改善策

成果の方向性	拡充	④	②	①	評価区分	事務事業の方向性
	現状維持					
縮小	⑥				二次評価	②コストは現状維持し、成果を拡充
休・廃止	⑦					
	休・廃止	縮小	現状維持	拡充		
	コスト投入の方向性					

次年度以降の改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★

コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策  
市報、ホームページ、報道機関への広報活動を積極的に行う。

コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策  
来館者にアンケート調査を実施し、市民のニーズに合った企画展を継続して実施する。新しい資料の収集、調査、展示に努める。

評価変更理由  
現時点でコストをかける具体策がないため、一次評価のとおりとする。